

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

2023 年 6 月 29 日

東大阪市長 殿

提出者

住 所 埼玉県朝霞市西原一丁目1番1号

氏 名 株式会社武蔵野
代表取締役 安田 信行

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 06-6618-3211

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、
産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社 武蔵野大阪工場
事業場の所在地	大阪府東大阪市高井田中三丁目2-5
計画期間	2023年4月1日～2024年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	弁当・おにぎり・寿司等の製造
② 事業の規模	売上高9,216,573,000円
③ 従業員数	560人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	・動物性植物残渣 株式会社 武蔵野大阪工場→〔運搬〕 田中飼料株式会社→〔処理〕 田中飼料株式会社 ・廃プラスチック類 株式会社 武蔵野大阪工場→〔運搬〕 株式会社 布施興業→〔処理〕 株式会社 布施興業 ・汚泥 株式会社 武蔵野大阪工場→〔運搬〕 大幸工業株式会社→〔積み換え保管〕 アスト株式会社 →〔海上運送〕海栄株式会社→〔処理〕株式会社 サニックス

（日本工業規格 A列4番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)
別紙ご参照

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（2022年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	金属くず	動植物性残渣	汚泥
	排出量	225.00 t	t	836.66 t	40.81 t
	(これまでに実施した取組) ■廃プラスチックと残渣 自社計量をおこない、業者が計量した排出量と差異がないか確認 ■残渣 油カス有価回収運用を開始				
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	金属くず	動植物性残渣	汚泥
	排出量	214.00 t	t	794.83 t	38.77 t
	(今後実施する予定の取組) ■残渣 フードロスの見える化で排出量を週次で追いかけて、随時改善していく。 油カスの有価回収の継続。				

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック類、動物性植物残渣、汚泥は分別/保管ともに管理することができる。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック類、動物性植物残渣、汚泥以外に分別するもの有価回収してもらう油カスは別途ドラム缶で保管。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（2022年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	金属くず	動植物性残渣	汚泥
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 自社で再生利用をおこなう廃棄物は無し。				
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	金属くず	動植物性残渣	汚泥
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 自社で再生利用をおこなう廃棄物は無し。				

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（2022年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	金属くず	動植物性残渣	汚泥
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
(これまでに実施した取組) 自社で中間処理をおこなう廃棄物は無し。					
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	金属くず	動植物性残渣	汚泥
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
(今後実施する予定の取組)					

自社で中間処理をおこなう廃棄物は無し。

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（2022年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	金属くず	動植物性残渣	汚泥
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 廃棄物を自社で埋め立てることは無し。				
②計画	【目標】				
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	金属くず	動植物性残渣	汚泥
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 廃棄物を自社で埋め立てることは無し。				

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（2022年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	金属くず	動植物性残渣	汚泥
	全処理委託量	225.00 t	t	836.66 t	40.81 t
	優良認定処理業者への処理委託量	225.00 t	t	t	t
	再生利用業者への処理委託量	225.00 t	t	836.66 t	40.81 t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t	t
(これまでに実施した取組)					

	<p>委託基準を遵守できる産業廃棄物処理業者を選定しており、一年に一度、現地確認をおこなっている。</p>
--	---

		【目標】			
		産業廃棄物の種類	廃プラスチック	金属くず	動植物性残渣
②計画	全処理委託量	214.00 t	t	794.83 t	38.77 t
	優良認定処理業者への処理委託量	214.00 t	t	t	t
	再生利用業者への処理委託量	214.00 t	t	794.83 t	38.77 t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t	t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>委託処理業者に対し、継続して定期的に処理状況の確認をおこなう。引き続き現状のリサイクルを実施し、環境負荷低減活動を推進する。</p>				
※事務処理欄					

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じた事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

添付資料 管理体制図および各部署の役割
【管理体制図】

